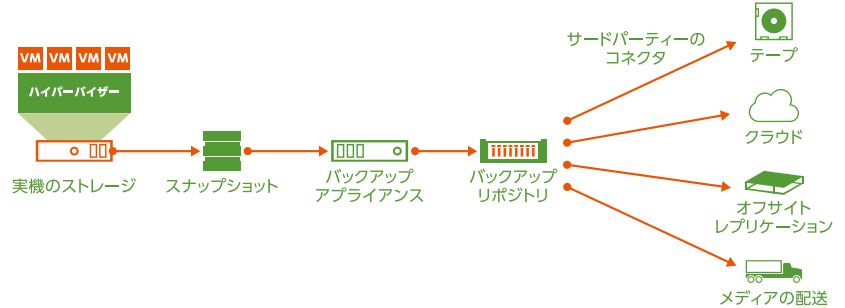


# VMware環境におけるクラウドデータ保護

## 複雑なVMwareデータ保護

仮想化により、サーバーや一次記憶装置の利用率は劇的に向上されました。しかし、仮想環境の保護や増え続ける構造化/非構造化データのためにオンプレミスの複雑な二次記憶モデルがいまだに必要とされ、多大な管理工数とインフラ費用が生じています。

事業継続性と情報ガバナンスに関するビジネスニーズが高まることで、インフラ回復性ととも長期保存によるデータ保護要件を具現化する方法も変わってきています。



## 一時しのぎのクラウド

クラウドは弾力的にワークロードを処理し、低コストなストレージモデルを使用できるため、データセンターの代替として大きな可能性を秘めています。しかし、クラウドを既存のインフラと連携させる場合、以下のような課題が生じます。

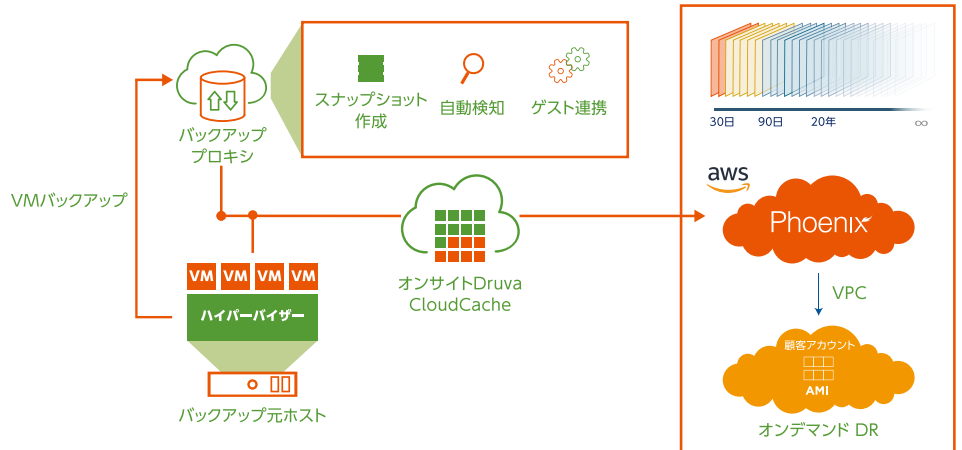
- テープ用、パブリッククラウド用に設計されたバックアップのアーキテクチャ不一致
- オンプレミス機器における回復性と拡張性のボトルネック
- 複数ストレージ階層、複数ベンダー、部分的ソリューションの統合による非効率性
- 非効率な重複排除 - 複数の再結合/重複排除手順

複数のアーキテクチャ要素やベンダーが存在すると最終的には全体のプロセスが複雑になり、高価でエラーが起きやすくなります。データの断片化とともに、保管場所やガバナンスに対する新しい規制が問題をさらに複雑にしています。

## Druva Phoenix: VMware環境へのクラウド回復性とモビリティ

これらの課題を対処するため、Druva Phoenixはバックアップ、ディザスタリカバリ、長期アーカイブ、分析機能を統合し、VMware環境を保護するために設計されたクラウド型のデータ保護を提供します。VMwareとDruvaが密に連携することで、仮想化ソリューションの最善の組み合わせと、迅速なクラウドデプロイメントによるデータ保護の恩恵を受けられるようになります。

Druva PhoenixはAWSパブリッククラウド上で構築され、簡単、安全で、拡張性が高いとともに、AWSの全リージョンでグローバルに展開することができます。



## Druva PhoenixアーキテクチャとVMware連携の概要

### プラットフォーム

- **クラウドネイティブ:** Phoenixは単一障害点やパフォーマンスのボトルネックなしにスケールアウトサービスを構築するため、マルチテナントのパブリッククラウド(AWS)アーキテクチャおよびS3、DynamoDB、Lambdaのようなマイクロサービスを活用しています。
- **ハードウェア、ソフトウェア不要:** Phoenixは新たなハードウェアが不要です。既存環境で設定を行うだけで、数分で世界中に世界規模の展開と拡張が可能です。
- **大規模に拡張可能な設計:** 制限なく世界中に導入可能な、実績あるクラウドアーキテクチャの拡張性が得られます。

### データ効率性

- **WAN最適化:** クラウドサービスに流入、流出するデータ転送は低遅延ネットワーク向けに最適化されています。Druva Phoenixは高度な帯域調整機能も提供し、各スケジュールで利用可能な総帯域幅に応じて消費帯域を制限します。
- **グローバル重複排除と永久増分バックアップ:** 転送データは全サイト上の全データによってグローバル重複排除が行われ、永久増分でバックアップすることでデータ種別と保存スケジュールに応じて全体で6~100倍バックアップ容量を削減することができます。
- **ストレージ階層の自動化:** 90日以上保存されたデータは、バージョン管理と重複排除はそのままに、自動的にコールドストレージ(AWS Glacier)に移行されます。
- **オンサイトのキャッシュ(オプション):** RTO短縮のためデータをローカルに30日分までキャッシュすることができます。

## VMware連携

- **vCenter連携**: 仮想マシンの自動検出、CBT (変更ブロックのトラッキング) 設定、ゲストOSプロセスとバックアップの有効化をバックアッププロキシ経由で連携します。
- **ポリシーのオーケストレーション**: VMグループ、RPO、RTOのポリシーおよび保存方式を簡単に設定できます。
- **プロキシロードバランシング**: vCenterによりバックアッププロキシをデプロイし、複数のバックアップ要求を自動的に負荷分散するように設定することができます。

## Druva Phoenixの実例:

### 業務俊敏性の向上、データ保護の簡素化、TCO削減



- **ワークロードのモビリティ**: パブリッククラウドを活用することで、より柔軟に複製やデータ移動が行えるようになります。クラウド上では、全リージョンのワークロード、テストと開発のための複製、複数リージョンをまたがるディザスタリカバリの手配がPhoenixによって提供されます。
- **クラウドの効率性**: PhoenixはVMware環境を保護するために圧倒的なコスト削減を実現する、ユニークで拡張性のあるクラウドファーストのアーキテクチャに基づいて構築されています。この削減は、ストレージ構成の最小化とストレージ階層の最適化により、追加インフラ不要で実現します。
- **高度なデータ削減**: Druvaが特許を取得した転送前のグローバル重複排除により、業界で最もきめ細やかで完全なデータ削減機能が提供されます。メタデータや自動階層型ストレージと相まって、永久増分バックアップモデルで非常に効率的なデータ収集を行うことで、従来型モデルで発生する大量のデータ保存を防ぎます。
- **徹底的なコスト削減**: Phoenixは高価なハードウェアアプライアンスやデータセンターが不要であり、管理工数を削減するだけでなく、単一のデータセットでバックアップ、ディザスタリカバリ、アーカイブ、分析の統合型アプローチを提供し、縦割り型のデータ管理によって生じるコストを大幅に低減します。
- **データの可視化と分析**: Druvaのファイルおよびコンテンツ解析機能により、VMware利用組織はデータソース全体にわたる潜在的なデータの危険性やコンプライアンス上のリスクに関する洞察を深められるようになります。またオンデマンドの分析機能により、IT管理者はデータ構成について情報を入手し、データ増加の主要傾向を認識できるようになります。
- **フォレンジックとコンプライアンス**: 一元化された監査機能、法的有効性、長期保存により、仮想イメージ内のデータに関するデータガバナンスとコンプライアンスを強く訴えることができます。

### Describe Your Environment



## まとめ

分散環境における仮想マシンのバックアップおよびリストアの管理は、複数の人員と複雑なインフラが必要となる手間のかかる作業です。Druva Phoenixは全く影響を与えない、クラウドへの直接的なソリューションを使い、グローバルに分散されたVMware環境のバックアップとリカバ리를一元化することにより、プロセスとインフラを効率化します。新規ハードウェアやソフトウェアの削減と、管理時間の短縮により、業務の俊敏性を向上させ、全体のコストを劇的に削減します。

**30日間の無償評価  
ライセンス**

30日間、Druva Phoenixをお試しいただける評価ライセンスを無料で発行しております。お気軽にお問い合わせください。